

学 会 記 事

第13回研究報告大会は、好天に恵まれた1992年11月7日（土）～8日（日）の両日、東北大学経済学部で開催された。共通論題は「ECの政治統合」で、ユーゴスラビアをめぐる政治・軍事問題の深刻化という、目下国際的に最大の関心を集めている情勢もあって、報告、フロアからの質疑ともに、これまでになく熱気のこもった雰囲気の中で、2日間の討論が行われた。第一日の午前、A. グロセール・パリ政治学院教授の特別講演が行われた。

8日の総会において、理事の任期満了にともない、新理事の選任が別掲のとおり承認され、理事長・金丸輝男氏の後任として、新理事長に島野卓爾学習院大学教授が選任された。また、片山謙二氏、高野雄一氏の両会員を「名誉会員」に推薦された。

これに続いて、ブリュッセルのEC委員会本部を訪問した田中俊郎会員（慶応義塾大学）から、ECSA-World（EC研究世界学会）が94年2～3月に行われる予定との報告があった。同大会のテーマは「Federalism, Subsidiarity and Democracy」である。（出席希望者は事務局まで申し出られたい）。

第一日目日程の終了後、主催校東北大学の好意により、ホテル・メトロポリタン仙台において、盛大な懇親会がひらかれた。懇親会には宮城EC協会からご好意ある支援を頂いた。

今回の大会のプログラムは次の通りであった。

〔プログラム〕

第1日（11月7日）

午前10時30分 理事会

午後の部（13時～16時30分）

司会者 田中 俊郎（慶応義塾大学）

- (1)スピネッリの欧州同盟構想 八十田博人(大和総研)
- (2)マーストリヒト条約と欧州議会
—新手続き その導入について— 小久保康之
(武蔵野短期大学)
- (3)フランス国民投票後の欧州統合の行方 アルフレッド・グロセール
(パリ政治学院)

総 会 (16時40分～17時)

懇親会 (18時～20時) ホテル・メトロポリタン仙台

第 2 日 (11月 8 日)

午前の部 (10時～12時)

司会者 南 義清 (信州大学)

- (1)マーストリヒト条約とデンマーク
—1992年 6 月 2 日の国民投票を中心として— 吉武 信彦 (高崎経済大学)
- (2)経済制裁の決定過程における EC と EPC の関係 辰巳 浅嗣 (阪南大学)

昼食休憩 (12時～13時) この間理事会

総 会 (13時～13時15分)

午後の部 (13時15分～15時15分)

司会者 内田 勝敏 (同志社大学)

- (1)マーストリヒト条約とフランス憲法 安江 則子 (日本大学)
- (2)EC 企業の旧ソ連・東欧への進出
—EC の深化と拡大へのミクロ的アプローチ— 貴志幸之佑 (大阪商業大学)